



# 知りたい好奇心

こうきしん

世の中には不思議で分かりづらいことがたくさんあります。自然、科学、歴史など、詳しい先生に解き明かしてもらいましょう。

## 天気を一瞬で変える 夏に現れる積乱雲

「積乱雲が発生します。てしまつてことがあるので、空が暗くなり始めたら、あられやひょう、落雷、ダウンバーストや竜巻に伴う突風にご注意ください。」。天気予報でこのように注意を耳にします。積乱雲は、夏の晴れた日の遠くの空に見える、白くもくもくとした背の高い雲でおなじみです。しかし積乱雲は、穏やかな夏の日を一瞬にして大荒れの日に変え

そして、あられやひょうの落下により、まわりの冷たい空気を引きずり下ろすことで下降気流を強めます。この下降気流を「ダウンバースト」と言います。ダウンバーストが地面にぶつかったとき、ちょうど蛇口から流れ落ちる水が流し台を勢いよく広がつていくように、冷たく強い風が周囲に広く吹き出しますが、この吹き出す風によって木や物は外側へ飛ばされてしまいます。

### 大荒れの天候

発達した積乱雲では、大豆くらいの大きさの氷の粒「あられ」と、ミカン大の大きさにまでなる氷の塊「ひょう」が作られ、地表に降ることがあります。重たいあられやひょうの落下だけでも十分激しいのですが、それらを伴ったより激しい気象現象が発生します。

### 建物に避難を

「急に空が暗くなつた」、「ゴロゴロと音が鳴りだした」、「冷たく強い風が吹き出した」ら、大荒れの天気をもたらす恐れのある積乱雲の接近の合図です。発達した積乱雲が近づいてきたら、すぐに頑丈な建物の中に避難できる場所に心がけることが必要です。

あられやひょうにより太陽の光がさえぎられるため、積乱雲の下や近くでは、昼間でも空は真っ暗になります。また、雲の中でそれらがぶつかりあつてつくられた電気が、地表の木や物との間で流れることで、激しい音を伴う落雷を発生させます。

（山梨大大学院国際流域環境研究センター 特任助教 佐野哲也）

山梨大の気象レーダーで観測される積乱雲。積乱雲の近くと下ではどんなことが起こっているのでしょうか（山梨大大学院国際流域環境研究センター 研究員 柿沢一弘さん撮影）